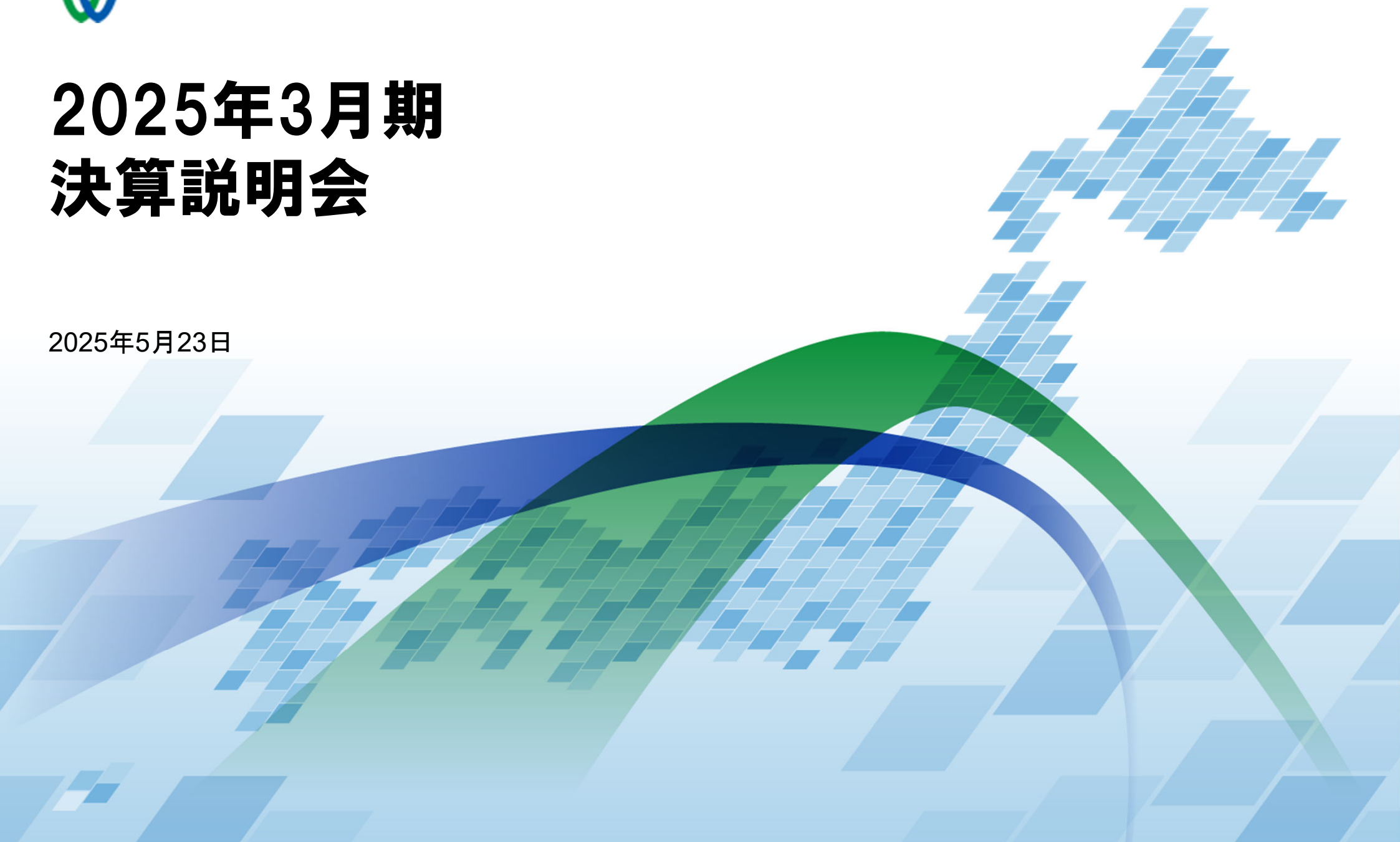




宮地エンジニアリンググループ株式会社

2025年3月期 決算説明会

2025年5月23日



I . 2025年3月期決算	P.2
II . 2026年3月期業績予想	P.17
III . 中期経営計画の進捗	P.20
Appendix 1 – 株価動向	P.37
Appendix 2 – 会社概要	P.39

I .2025年3月期決算

2025年3月期トピックス



- ◆ 2024年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境、企業収益や雇用情勢などに改善の動きがあり、景気が緩やかに回復しているものの、米国の通商政策等による不透明感が見られた
- ◆ 公共投資は予算ベースで堅調に推移しているものの、既契約工事において大幅な追加予算が必要となったことなどの影響を受け、新規契約工事の規模を縮小する動きが活発化
- ◆ 橋梁事業の発注については、新設関連で2023年度実績2,755億円を下回る2,490億円（いずれも当社集計値）となり、さらに物価上昇の影響により、重量ベースでも2023年度実績をさらに下回る結果
- ◆ 改正道路整備特別措置法に基づく2115年までの高速道路有料化を財源とする道路整備などの促進により、2024年度の期首時点で2023年度実績（2,338億円）と同規模程度の発注を見込んでいた大規模更新・保全関連工事においても、想定を大幅に下回る1,710億円（いずれも当社集計値）の発注にとどまる

2025年3月期トピックス

- ◆ その様な厳しい状況下においても受注高については、技術的難易度の高い大型の新設関連、鉄道関連工事などの受注により、過去最高となった2023年度に次ぐ714億円41百万円（前年同期比15.4%減）
- ◆ 売上高においては、大規模更新・保全関連工事などの手持ち工事が概ね順調に進捗し、過去最高となる747億25百万円（同7.7%増）
- ◆ 生産効率化や工事採算性向上の取り組み、働き方改革による業務効率化などの活動により、営業利益は91億68百万円（同16.0%増）、経常利益は94億96百万円（同20.1%増）といずれも過去最高

2025年3月期決算サマリー

大規模更新工事や大型案件が順調に進捗、売上高、利益ともに過去最高
 厳しい業界環境ながら受注高は過去最高となった前年に次ぐ714億円

(百万円)

	23/3期	24/3期		25/3期	
	実績	実績	前年比	実績	前年比
売上高	60,279	69,365	15.1%	74,725	7.7%
営業利益	5,127	7,904	54.2%	9,168	16.0%
経常利益	5,373	7,908	47.2%	9,496	20.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,077	4,354	41.5%	4,863	11.7%
受注高	66,650	84,486	26.8%	71,441	▲15.4%
受注残高	100,658	115,780	15.0%	112,496	▲2.8%

主要な売上工事(1)

新設関連工事

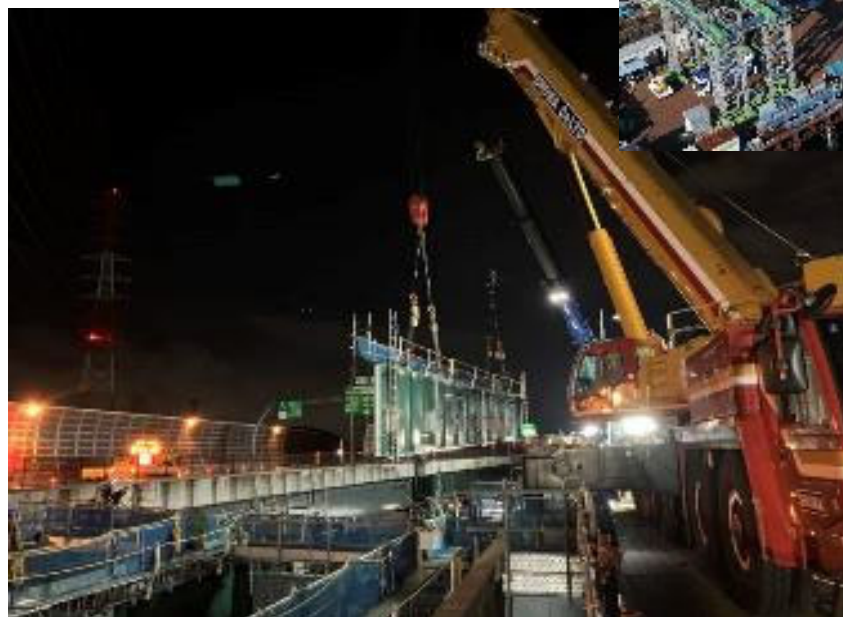
川崎港臨港道路
東扇島水江町線主橋梁部
上部工事(その2)
関東地方整備局



令和4年度
小禄道路橋梁上部工
(P24~P30)工事
沖縄総合事務局



第二京阪道路
門真高架橋東(鋼上部工)設計・工事
西日本高速道路株式会社



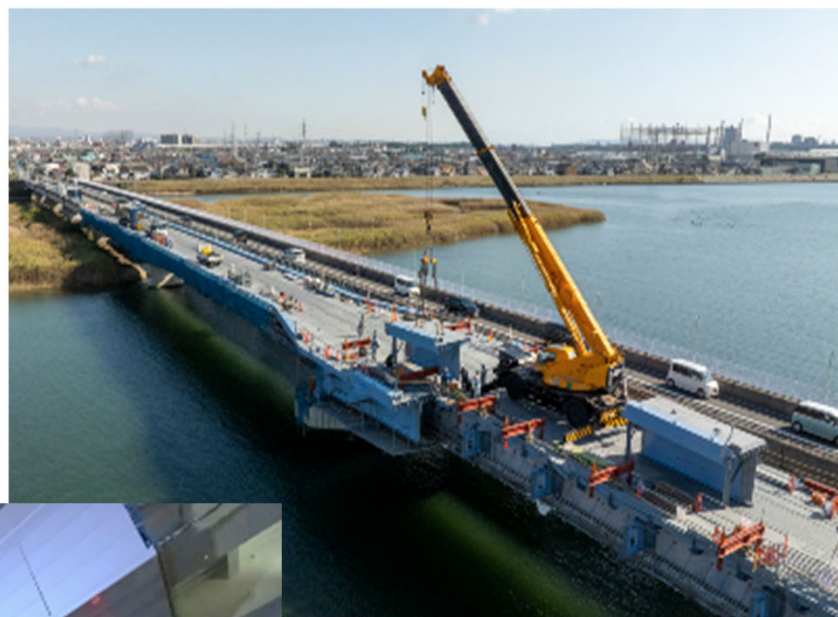
主要な売上工事(2)

大規模更新・保全関連工事

喜連瓜破橋大規模更新工事
阪神高速道路株式会社



明石高砂線 相生橋上部工拡幅工事
兵庫県



杣川橋工事
西日本高速道路株式会社



主要な売上工事(3)

鉄道関連、大空間・特殊建築物工事

北海道新幹線札幌駅創成工区
清水・岩田地崎・伊藤・札建JV



球磨川第四橋梁建設(第二期)工事
九鉄工業株式会社

松本平広域公園陸上競技場
整備事業
清水・松本土建JV



主要な受注案件の概要



当社グループの主要な受注案件

市道高速1号他
新洲崎工区改築事業(工事)
名古屋高速道路公社



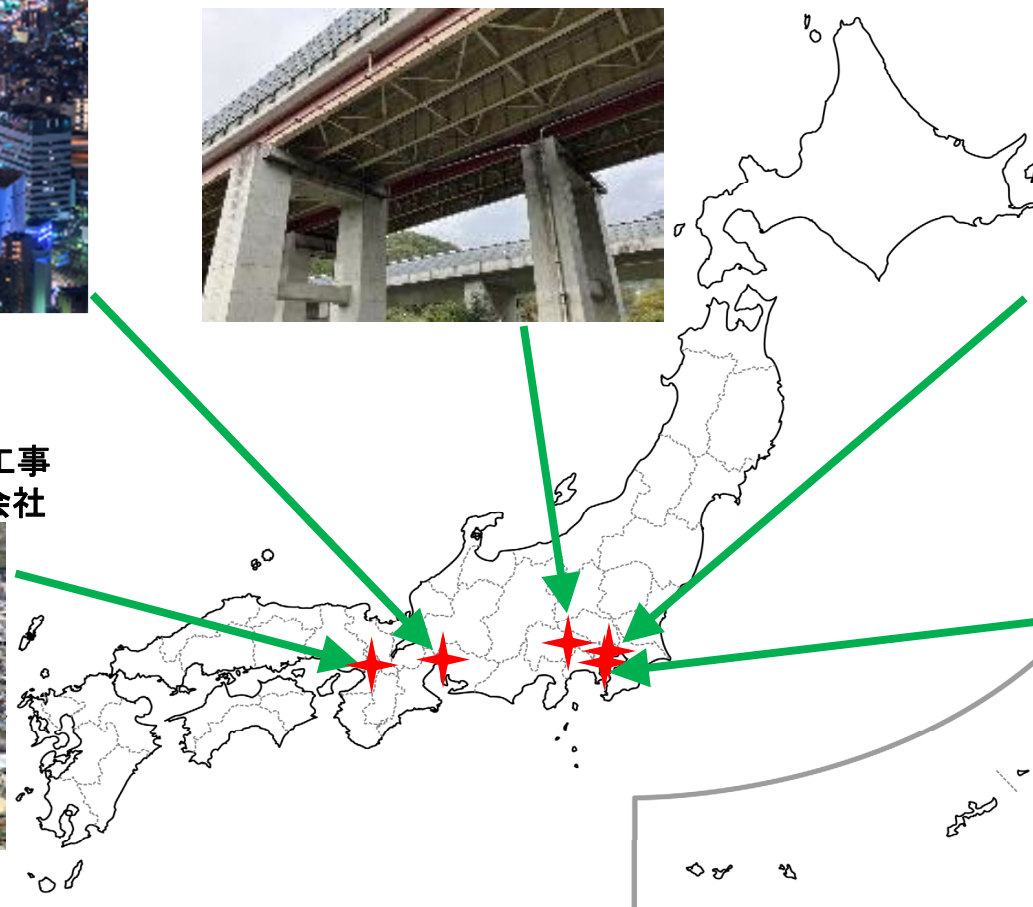
中央自動車道(特定更新等)
中野橋床版取替工事(2023年度)
中日本高速道路株式会社



品川駅構内環状第4号線交差部新設他
鹿島建設株式会社



淀川左岸線延伸部
門真ジャンクション東(鋼上部工)工事
西日本高速道路株式会社



川崎港臨港道路東扇島水江町線
主橋梁部上部工事(その2)
関東地方整備局

セグメント別実績(1)

宮地エンジニアリングは前年比増収減益
エム・エムブリッジは前年比増収大幅増益

(百万円)

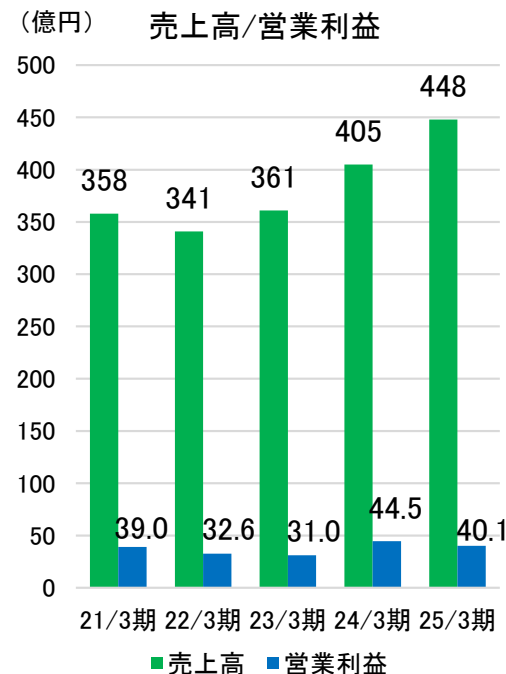
	23/3期	24/3期		25/3期	
	実績	実績	前年比	実績	前年比
売上高	60,279	69,365	15.1%	74,725	7.7%
宮地エンジニアリング	34,455	39,729	15.3%	44,435	11.8%
エム・エムブリッジ	25,927	29,639	14.3%	30,278	2.2%
その他	3	5	50.8%	4	▲15.0%
営業利益	5,127	7,904	54.2%	9,168	16.0%
宮地エンジニアリング	3,097	4,452	43.8%	4,013	▲9.9%
エム・エムブリッジ	2,018	3,426	69.7%	5,156	50.5%
その他	1,464	3,774	157.7%	4,556	20.7%
受注高	66,650	84,486	26.8%	71,441	▲15.4%
宮地エンジニアリング	38,721	45,063	16.4%	45,042	▲0.0%
エム・エムブリッジ	27,925	39,417	41.2%	26,393	▲33.0%
その他	3	5	50.8%	4	▲15.0%
受注残高	100,658	115,780	15.0%	112,496	▲2.8%
宮地エンジニアリング	57,262	62,596	9.3%	63,203	1.0%
エム・エムブリッジ	43,369	53,148	22.5%	49,263	▲7.3%
その他	—	—	—	—	—

セグメント別実績(2)

宮地エンジニアリング

受注高については、新設工事では、名古屋高速/新洲崎工区改築事業(工事)や西日本高速/門真ジャンクション東(鋼上部工)を、保全工事では、中日本高速/中野橋床版取替工事を受注し、過去最高であった昨年度と同程度の454.7億円(同1.2%減)となりました。

売上高は、西日本高速/門真高架橋東の他、鉄道関連工事である品川駅構内環状4号線交差部新設他や広電広島駅高架化関連工事などが順調に進捗したことにより448.9億円となりました。損益につきましては、生産効率化や工事採算性向上に取組みなどの活動により、営業利益は40.1億円となりました。



今後の取り組み

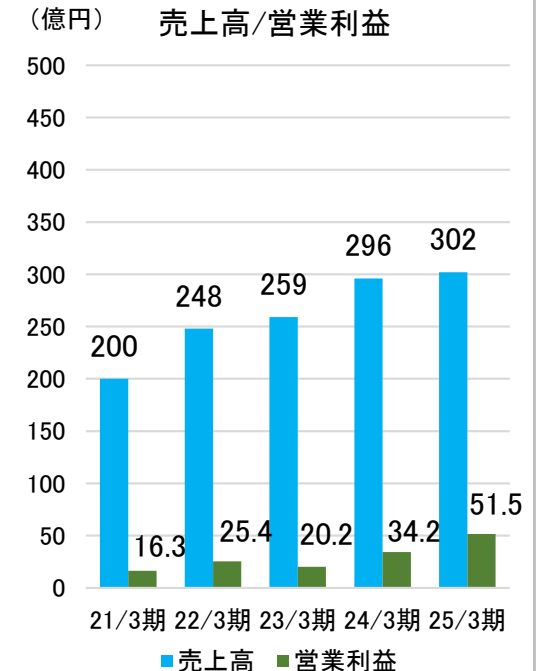
大型橋梁プロジェクトや新設事業から保全事業まで幅広く

現在、日本では道路構造物を始め、社会インフラの老朽化が顕在化し、大規模更新などの国土強靱化対策の推進が求められており、長年培ってきた技術力を生かし、当社はこれらの課題に貢献できると考えております。複数の大型橋梁プロジェクトとともに、新設事業から保全工事まで幅広く、バランスの取れた事業展開を進めてまいります。そのために、人材の確保や次世代の育成を推進し、技術力の更なる向上を図るとともに、DXによる生産効率化やカーボンニュートラルへの取組みを進めてまいります。

エム・एम ブリッジ

受注高については、名古屋高速/新洲崎工区改築事業(工事)受注の他、阪神高速/新港灘浜や中日本高速/仙川高架橋床版取替工事等の技術提案交渉方式における優先交渉権を獲得しましたが、目標案件の発注期ズレの影響があり、過去最高であった昨年度と比較し33%減の263.9億円となりました。

売上高は、阪神高速/喜連瓜破橋等の大規模更新工事や西日本高速/門真高架橋東や仙川橋といった4(6)車線化工事が順調に進捗したこと等により302.7億円となりました。また損益についても、原価低減・設計変更の獲得により営業利益は51.5億円となり、売上・営業利益とも過去最高額を計上することができました。



今後の取り組み

受注規模拡大とDX推進

受注環境においては競争が激化していますが、大規模更新・高難度工事に加え、当社が得意とする沿岸構造物や新分野への取組み推進により、受注規模の拡大を図ってまいります。また近い将来のi-Construction2.0の実現に向けたDXへの取組みを加速し、生産性向上による人材不足・働き方改革への取組みのみならず、原価低減による業績への貢献を図ってまいります。

事業別実績(1)

受注は新設関連が引き続き増加するも大規模更新・保全是大きく減少
新設関連売上高は引き続き大きく増加

(百万円)

	受注高					売上高				
	23/3期	24/3期		25/3期		23/3期	24/3期		25/3期	
	実績	実績	前年比	実績	前年比	実績	実績	前年比	実績	前年比
合計	66,650	84,486	26.8%	71,441	▲15.4%	60,279	69,365	15.1%	74,725	7.7%
新設	24,235	34,309	41.6%	45,376	32.2%	20,322	27,192	33.8%	36,190	33.0%
大規模更新・保全	14,489	33,051	119.8%	6,707	▲79.7%	21,837	19,742	▲9.6%	19,746	0.0%
鉄道	16,475	14,122	▲14.3%	16,428	16.3%	12,876	13,241	2.8%	14,461	9.2%
FRP・その他	801	1,285	60.4%	776	▲39.5%	977	958	▲1.9%	962	0.3%
大空間・特殊建築物	1,792	1,589	▲11.3%	1,444	▲9.1%	1,744	1,339	▲23.2%	2,016	50.5%
沿岸構造物	8,752	47	▲99.5%	659	1,273.2%	2,416	6,809	181.8%	1,299	▲80.9%
太陽光発電	103	80	▲22.1%	48	▲39.7%	103	80	▲22.1%	48	▲39.7%

- ◆ 新設関連で市道高速1号線他新洲崎工区改築事業(工事)など453億76百万円を受注
- ◆ 鉄道関連で品川駅構内環状4号線交差部新設他など164億28百万円を受注
- ◆ 新設関連で川崎港臨港道路東扇島水江町線主橋梁部上部工事などにより361億90百万円を売上
- ◆ 大規模更新・保全関連で喜連瓜破橋大規模更新工事などにより197億46百万円を売上

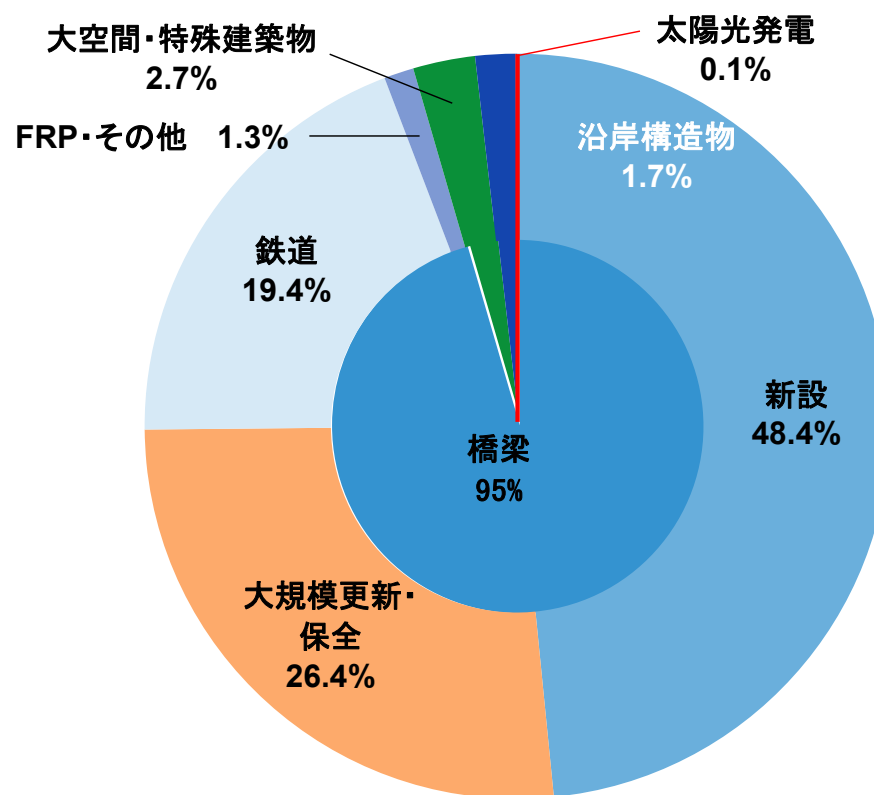
事業別実績(2)

業界トップクラスの橋梁総合エンジニアリング企業

長大橋含む鋼製橋梁、タワー・ドームなど大空間構造物、沿岸構造物の設計・製作・建設計画・施工を一貫して手掛ける

橋梁	新設	大規模プロジェクトを含む新設橋梁の設計・製作・施工計画・現場施工
	大規模更新・保全	高速道路の構造物を最新の技術を用いて建設当初と同等またはそれ以上の性能や機能を回復させる大規模更新工事と、既設橋梁の補修、拡幅、災害復旧、撤去、架け替え工事などの設計・製作・施工計画・現場施工
	鉄道	高い技術力を必要とする鉄道の渡河橋や跨道橋および跨線橋の設計・製作・施工計画・現場施工
	FRP・その他	FRPを用いた検査路や化粧板などの開発製品や特許技術などに関する販売、業務委託
大空間・特殊建築物		東京スカイツリーなどの高層タワーやエスコンフィールド北海道などのドームの施工計画・現場施工
沿岸構造物		特殊な設計技術力を必要とする鋼製の沈埋函、ケーソン、ジャケット、浮消波堤などの設計・製作
太陽光発電		旧工場跡地を活用した太陽光発電事業

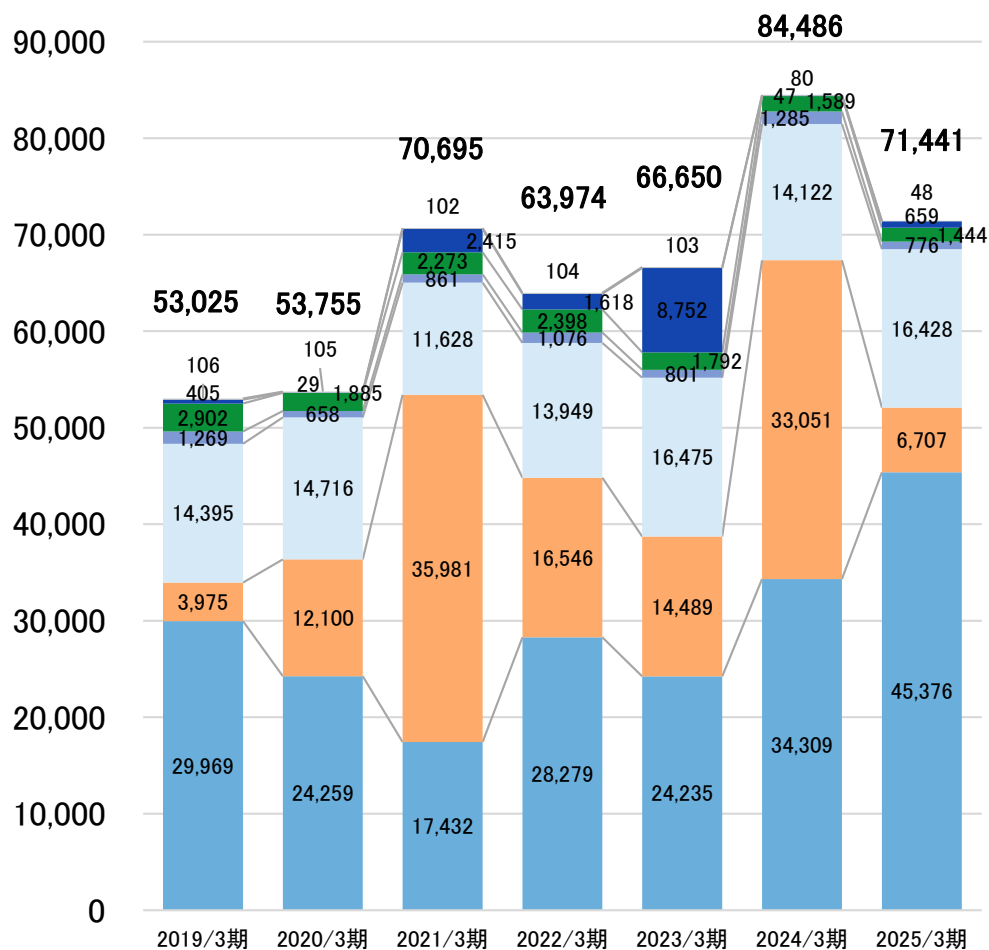
2025年3月期 事業別売上実績比率



事業別実績(3)

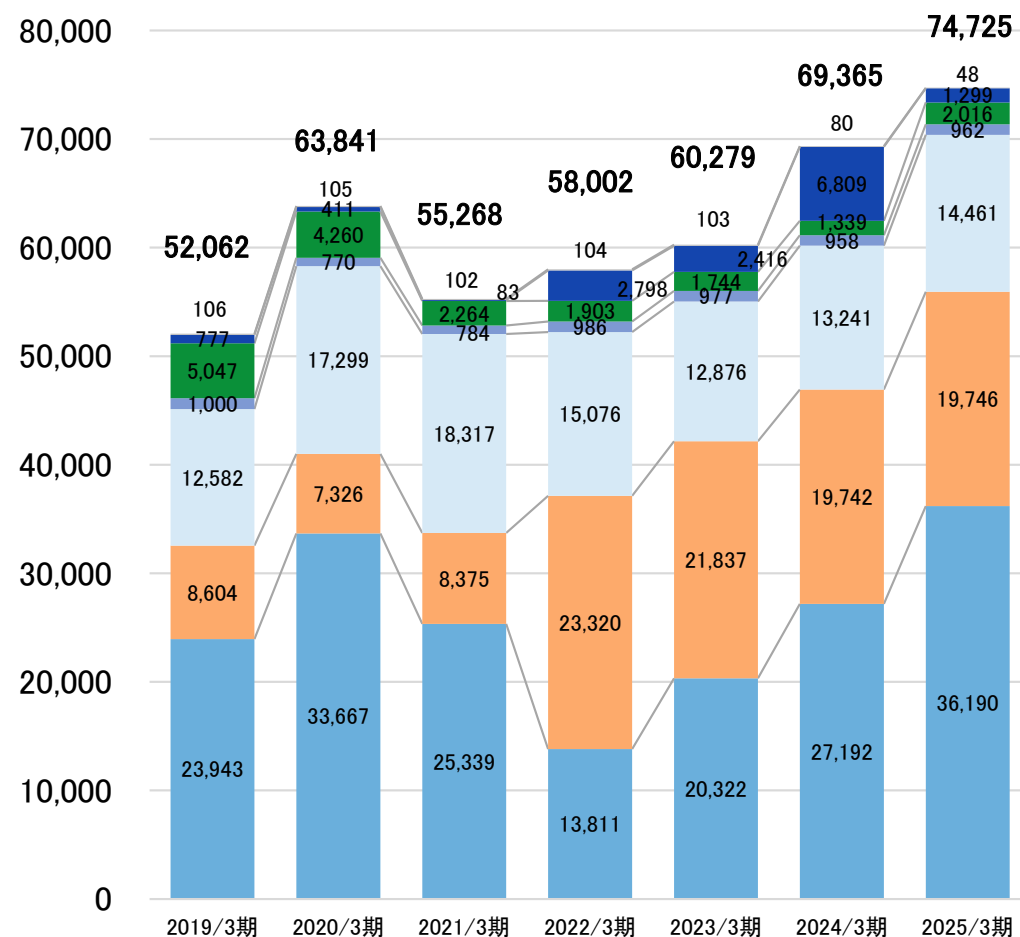
受注高推移

(百万円)



売上高推移

(百万円)



■ 新設 ■ 大規模更新・保全 ■ 鉄道 ■ FRP・その他 ■ 大空間・特殊建築物 ■ 沿岸構造物 ■ 太陽光発電

事業別実績(4)

受注残高の推移

(億円)

2,500

各年度棒グラフ

左側: 受注残高

右側: **受注残高** (技術提案交渉方式により優先交渉権を獲得した工事の想定工事規模を受注残高に加算したもの)

2,000

1,500

1,000

500

0

2017/3期

2018/3期

2019/3期

2020/3期

2021/3期

2022/3期

2023/3期

2024/3期

2025/3期

■新設

■大規模更新・保全

■鉄道

■FRP・その他

■大空間・特殊建築物

■沿岸構造物

■太陽光発電

貸借対照表、キャッシュ・フロー

総資産額が大幅に増加し自己資本比率は低下

主な貸借対照表の項目

(百万円)

	23/3末	24/3末	25/3末
資産合計	63,067	74,146	90,597
流動資産	43,185	51,316	66,744
固定資産	19,882	22,829	23,853
有形固定資産	12,968	13,911	15,484
無形固定資産	372	415	439
投資その他の資産	6,540	8,502	7,928
負債合計	21,483	27,515	42,440
流動負債	17,395	22,851	37,429
固定負債	4,087	4,664	5,010
純資産合計	41,584	46,630	48,157
株主資本	29,828	32,481	33,265
その他の包括利益累計額	5,695	7,230	7,041
非支配株主持分	6,059	6,918	7,849

売上債権増加等により営業CFはマイナスに転じ短期借入金を調達、株主還元にも充当

主なキャッシュ・フロー計算書の項目

(百万円)

	23/3期	24/3期	25/3期
営業活動によるキャッシュ・フロー	495	8,841	▲2,652
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲711	▲1,539	▲2,458
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,147	▲1,802	2,498
現金及び現金同等物の増減額(▲は減少)	▲2,363	5,499	▲2,612
現金及び現金同等物の期末残高	13,615	19,115	16,502

Ⅱ.2026年3月期業績予想



2026年3月期トピックス

- ◆ わが国経済の見通しは、「賃上げと投資が牽引する成長型経済」を実現していくことが期待されている一方、米国の通商政策の影響に加え、物価上昇の継続が消費マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、景気を下押しするリスクとなっている
- ◆ そのような状況下、橋梁事業の2025年度の発注見通しについては、新設関連で2,200億円、大規模更新・保全関連で1,900億円(いずれも当社推定値)と、前年同規模程度の発注量(金額ベース)を予想
- ◆ 物価上昇などの影響により、新設関連における重量ベースでの発注量減少が見込まれる上、大規模更新・保全関連においても規模縮小の動きが続く厳しい状況であるものの、受注については前年並みの目標値を設定
- ◆ 2025年3月期第2四半期決算説明会時に、市況などを踏まえて厳しい見通しを公表した業績予想については、その後の採算改善への取組みにより、損益の目標値を上方修正

2026年3月期業績予想

減収減益予想 ただし、2024/11公表値よりも利益額上方修正、配当予想は前期と同額を維持

	(百万円)					
	24/3期	25/3期		26/3期		
	実績	実績	前年比	2024/11公表値	業績予想	前年比
売上高	69,365	74,725	7.7%	60,000	58,000	▲22.4%
営業利益	7,904	9,168	16.0%	3,100	4,000	▲56.4%
経常利益	7,908	9,496	20.1%	3,200	4,100	▲57.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,354	4,863	11.7%	1,900	2,500	▲48.6%
1株当たり年間 配当金(円)*1	96 (普通配当 91 記念配当 5)	97.5	—	97.5	97.5	—
自己資本利益率 (ROE)	11.6%	12.2%	—	—	6.2%	—
受注高	84,486	71,441	▲15.4%	—	68,000	▲4.8%
受注残高	115,780	112,496	▲2.8%	—	122,496	8.9%

*1 2023年10月1日および2024年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり年間配当金は分割考慮後で表示

Ⅲ.中期経営計画の進捗

中期経営計画 環境認識

- ◆ 公共投資の先行きについては、金額ベースでは堅調に推移していくことが見込まれているものの、新設関連においては物価上昇などの影響により、重量ベースでは低調な発注量が継続する見通し
- ◆ 既契約工事において大幅な追加予算が必要となったことなどの影響を受け、新規契約工事の規模を縮小する動きが活発化している流れについては、まだ暫く続くものと予想
- ◆ 更新・保全工事が必要となる箇所が増え続けている現状を踏まえ、高速道路の大規模更新工事(事業規模7兆円)の発注量は、緩やかに回復していくことが見込まれる
- ◆ 大阪湾岸線西伸部の連続斜張橋などの高難度ビッグプロジェクトも順調に進捗

中期経営計画 環境認識

- ◆ 技術的難易度の高い施工対応力が求められている新設関連のビッグプロジェクトや大規模更新・保全関連工事においては、複数の案件で技術提案・交渉方式による優先交渉権を獲得しており、当社グループとして実質的には相当量の受注ストックを有している状況であるものの、協議難航などの影響により施工時期が後ろ倒しとなる流れは継続する見通し
- ◆ 但し、今後も継続して工事の受注や優先交渉権の獲得により受注ストックを増やすことにより、次期中期経営計画期間(2027～2031年度)においては、一定以上の安定的な売上を確保できる見通し
- ◆ 受注から売上までの期間が短い新設関連主体から、詳細設計や協議などにより、受注から売上までの期間が非常に長い大規模更新・保全関連主体へと、市場環境が大きく変化していく過渡期とも言える現中期経営計画期間の後半は、売上・利益の谷間の年とも言える

定量目標の進捗



(百万円)

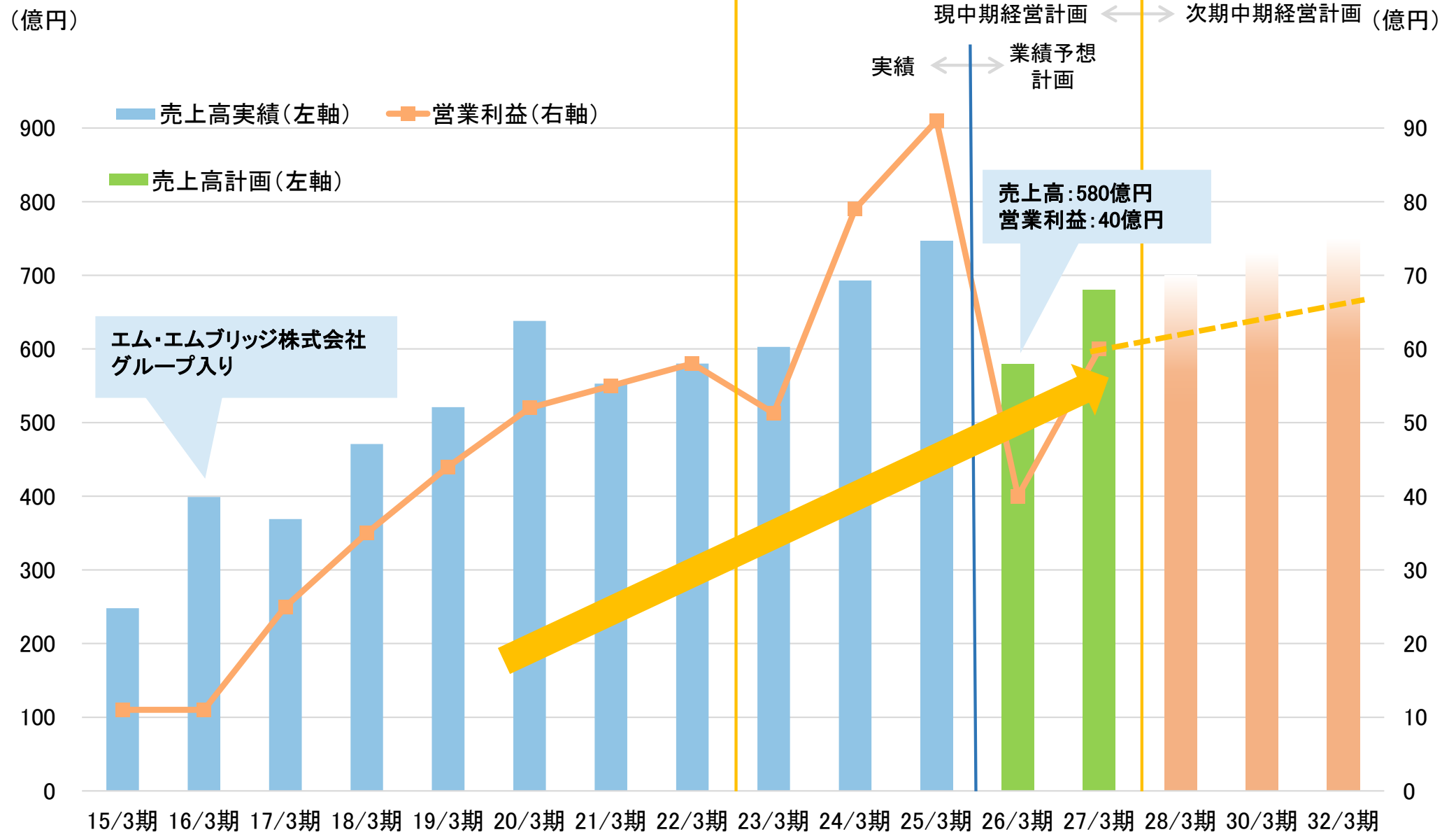
	23/3期	24/3期	25/3期		26/3期	27/3期
	実績	実績	業績予想	実績	業績予想	中計目標
売上高	60,279	69,365	73,000	74,725	58,000	68,000
営業利益	5,128	7,904	8,500	9,168	4,000	6,000
経常利益	5,374	7,908	8,600	9,496	4,100	6,100
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,077	4,354	4,000	4,863	2,500	4,000
1株当たり年間配当金(円)*1	35	96	97.5	97.5	97.5	97.5
自己資本比率	56.3%	53.5%	—	44.5%	50.3%	55%
自己資本利益率(ROE)	8.9%	11.6%	—	12.2%	6.2%	10%
総資本利益率(ROA)	8.6%	11.5%	—	11.5%	4.8%	10%

*1 2023年10月1日および2024年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり年間配当金は分割考慮後で表示

次期中期経営計画も見据えた今後の進め方

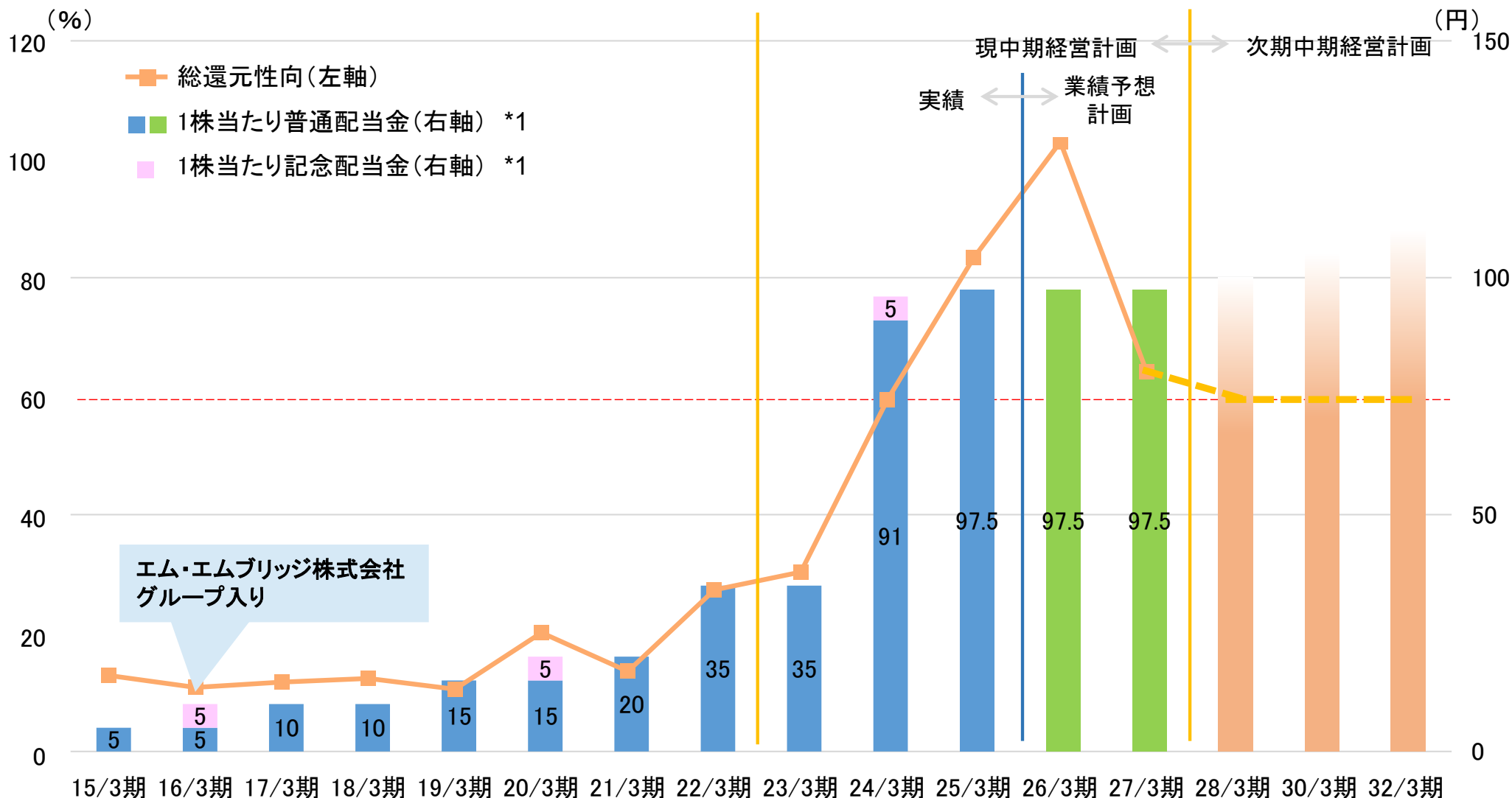
- ◆ 中期経営計画(2022～2026年度)に基づきグループとしての経営管理体制を一層強化する
- ◆ 今後も継続して安定した黒字体質を確固たるものとするよう努める
- ◆ 宮地エンジニアリング株式会社、エム・エム ブリッジ株式会社と一体となって持続的な成長と事業発展を図る
- ◆ 国内の鋼橋市場の変化・動向を踏まえて新設関連工事、大規模更新・保全関連工事、民間工事に経営資源の選択と集中を行う
- ◆ 人材の確保・育成、女性活躍を推進し、働き方改革を進める
- ◆ 株主への還元策として、配当金額の継続的な維持拡大を目指す
- ◆ 具体的な次期中期経営計画(2027～2031年度)の内容については2026年度に公表予定

売上高・営業利益の実績および計画



株主還元の実績および計画

総還元性向60%を目安に株主還元の維持・拡大へ



*1 2023年10月1日および2024年10月1日に普通株式1株につき2株の割合をもって分割、1株当たり配当金は分割考慮後で表示

Copyright© 2025 MIYAJI ENGINEERING GROUP,INC.

主要戦略の状況

主要戦略	進捗評価	取組状況	
1)新設橋梁ビッグプロジェクトへの参画	○	大阪湾岸道路西伸部新設橋梁ビッグプロジェクト(連続斜張橋)の優先交渉権を獲得し、詳細設計業務に鋭意取り組み中	質・量共に 経営資源を揃える 当社の強みを 最大限に発揮できる プロジェクト
2)高速道路大規模更新工事の取り込み拡大	○	今年度も技術提案・交渉方式で発注された仙川高架橋床版取替工事、新保土ヶ谷ICランプ橋リニューアル工事の優先交渉権を獲得し、詳細設計対応中	
3)民間の高難度工事への対応	○	高い技術力が評価されている民間向け高難度工事(鉄道、大空間・特殊建築物、沿岸構造物関連工事)についても、複数の具体的案件に鋭意取組継続中	
4)技術開発の強化	○	ICT、DX関連会社や各種メーカーとの共同開発を進め、業務改善を推進中	
5)事業拡大・効率化に向けた設備投資	○	栗橋機材センターへの太陽光発電設備設置完了・兵庫機材センター移転地造成開始・2026年度竣工に向け千葉工場新事務所棟建築計画を推進中	
6)アライアンス強化	○	ゼネコンとの異工種JVにより大規模更新・保全関連工事の優先交渉権獲得引き続き複数の案件で異工種JVによる応札対応中	
7)開発商品の拡販	○	FRP検査路などの開発商品について、事業計画に基づき順調に拡販対応中	
8)ESGへの取り組み	○	統合報告書2024においてKPIを公表 GHG排出量のScope1・2・3公表など、非財務情報の開示を拡充	

施策取り組みの状況

優先交渉権を獲得して設計対応中の大規模工事

道央自動車道 北郷地区橋梁リニューアル工事 実施設計

発注者： 東日本高速道路株式会社 北海道支社

契約業者：大成建設・岩田地崎建設・伊藤組土建・極東興和・エム・エムブリッジ

道央自動車道 北郷地区リニューアル工事特定建設工事共同企業体



中央自動車道(特定更新等)

仙川高架橋床版取替工事(詳細設計 その1)

発注者： 中日本高速道路株式会社 東京支社

契約業者： 鹿島建設(株)・(株)鴻池組・

ドーピー建設工業(株)・宮地エンジニアリング(株)

・エム・エムブリッジ(株)JV

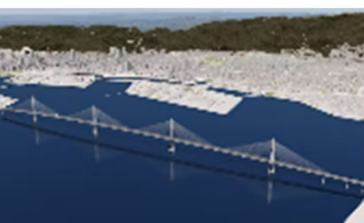


税関前歩道橋リニューアル事業

発注者： 神戸市

契約業者：エム・エムブリッジ・日下部建設

・長大特定建設工事共同企業体



大阪湾岸道路西伸部

新港・灘浜航路工区(西)鋼斜張橋工事設計業務

発注者： 阪神高速道路株式会社

契約業者：横河・MMブリッジ・JFE・宮地・日ファブ

・三井住友建設鉄構・横河NS JV

出所：阪神高速道路(株)

横浜新道 新保土ヶ谷ICランプ橋リニューアル工事

発注者： 東日本高速道路株式会社 関東支社

契約業者： 鹿島建設(株)・エム・エムブリッジ(株)・

佐藤工業(株)・ドーピー建設工業(株)

横浜新道 新保土ヶ谷ICランプ橋リニューアル工事

特定建設工事共同企業体



施策取り組みの状況

ゼネコン等との異工種JVにより受注した 2025年度に竣工または施工中の大規模更新・保全関連工事



市道高速1号他新洲崎工区改築事業(工事)
大林組・大豊建設・矢作建設工業・川田工業
・エム・エムブリッジ・宮地エンジニアリング
・瀧上工業・駒井ハルテックJV



中央自動車道(特定更新等)
中野橋床版取替工事(2023年度)
中日本高速道路株式会社
富士ピー・エス・宮地エンジニアリングJV



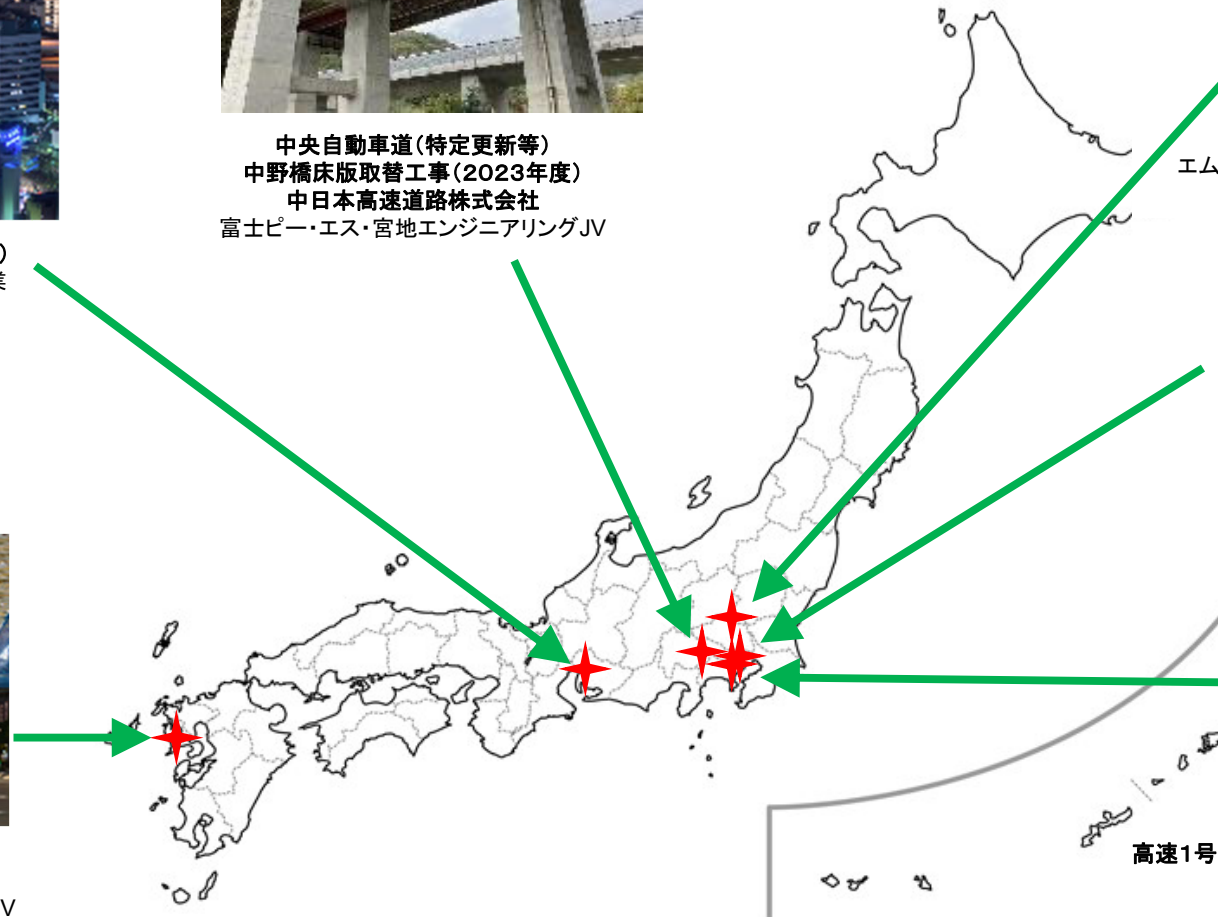
東北自動車道 利根川橋耐震補強工事
東日本高速道路株式会社
エム・エムブリッジ株式会社・鉄建建設株式会社



(改都心環状線(日本橋区間)高速6号
向島線接続地区上部・橋脚・基礎工事
首都高速道路株式会社
JFE・MMB・鹿島・東亜異工種JV



佐世保道路 佐世保高架橋(拡幅)工事
西日本高速道路株式会社
エム・エムブリッジ・瀧上工業・富士ピー・エスJV

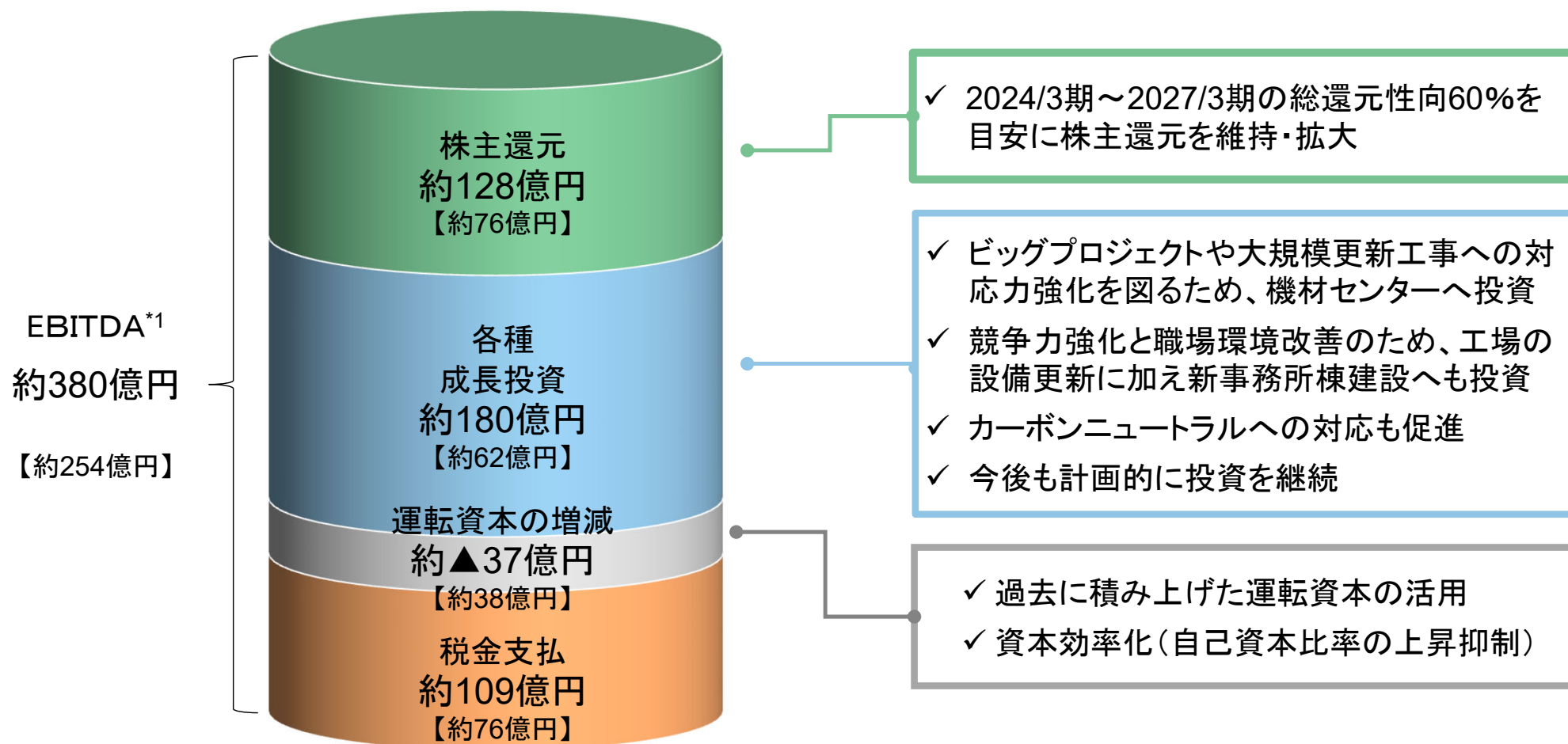


高速1号羽田線(東品川橋・鮫洲埋立部)更新工事
首都高速道路株式会社
大林・清水・三井住友・東亜・青木あすなろ・
川田・東骨・MMB・宮地異工種JV

資本戦略

一定の資本拡充および成長投資も確保の上で、株主還元の維持・拡大を図る

2023/3期～2027/3期合計

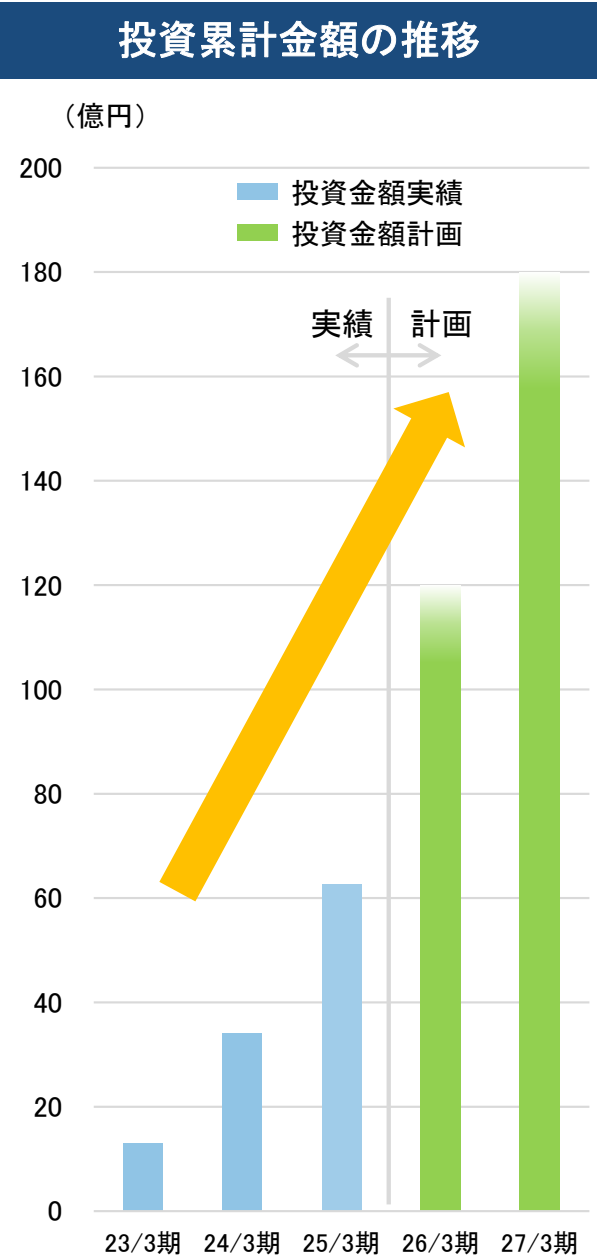


*1 Earnings Before Interest Taxes Depreciation and Amortization

(注) 【 】内は2023/3期～2025/3期の実績累計

投資戦略

		5年間の投資 見込み金額	実績累計	投資の内容
生産能力の効率 化・適正化	ヤードの整備・スペース効 率化	1.5億円	0.2億円	塗装工場再構築は完了 仮組ヤードへの50t吊大 型門型クレーン導入完了 その他の設備についても 順次更新予定
	塗装工場再構築	13.0億円	11.6億円	
	工場設備の更新・補修・建 屋耐震補強	25.0億円	13.1億円	
	新事務所棟建設	60.0億円	—	2027年1月竣工に向け、 基本設計対応中
	機材センターの改修	10.5億円	9.3億円	栗橋機材センターの保管 倉庫・新事務棟建築完了
	機材センターの設備更新	17.0億円	16.5億円	ヤード内門型クレーン等 の設備を順次更新中
	栗橋機材センター保管ヤード 見直しの追加	10.5億円	—	代替地となる保管ヤード 候補地を選定中
	兵庫機材センターの移転拡 張の追加	12.5億円	4.0億円	2027年3月竣工に向け、 用地を取得して造成開始
カーボンニュート ラル対応	2050年のカーボンニュート ラルの実現に向けた具体的 な施策の実施の追加	9.0億円	1.2億円	機材センターへの太陽光 発電設備設置完了
事業ポートフォリ オの拡大・適正化	新規事業開発	11.0億円	6.2億円	10件/年の新技術開発に 取り組み中 DXを活用した業務効率 化に向けて鋭意対応中
総合エンジニアリ ングの機能強化	技術開発			
	M&A	10～30億円 規模を想定	—	持続的成長に資する案件 があれば前向きに取り組 むべく、準備対応中
成長投資合計		180～200億円規模を想定		



投資戦略



宮地エンジニアリング(株) 栗橋機材センター
各建屋屋上に太陽光発電パネルの設置完了



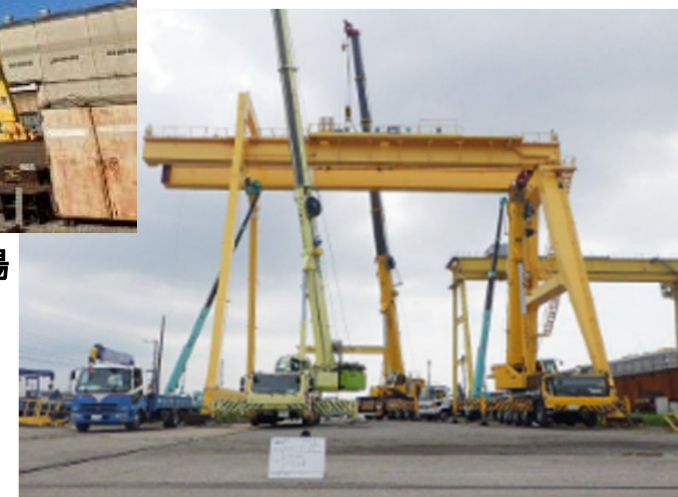
宮地エンジニアリング(株) 兵庫機材センター
2024年8月造成開始(写真の赤線内)



宮地エンジニアリング(株) 千葉工場
門型クレーン導入



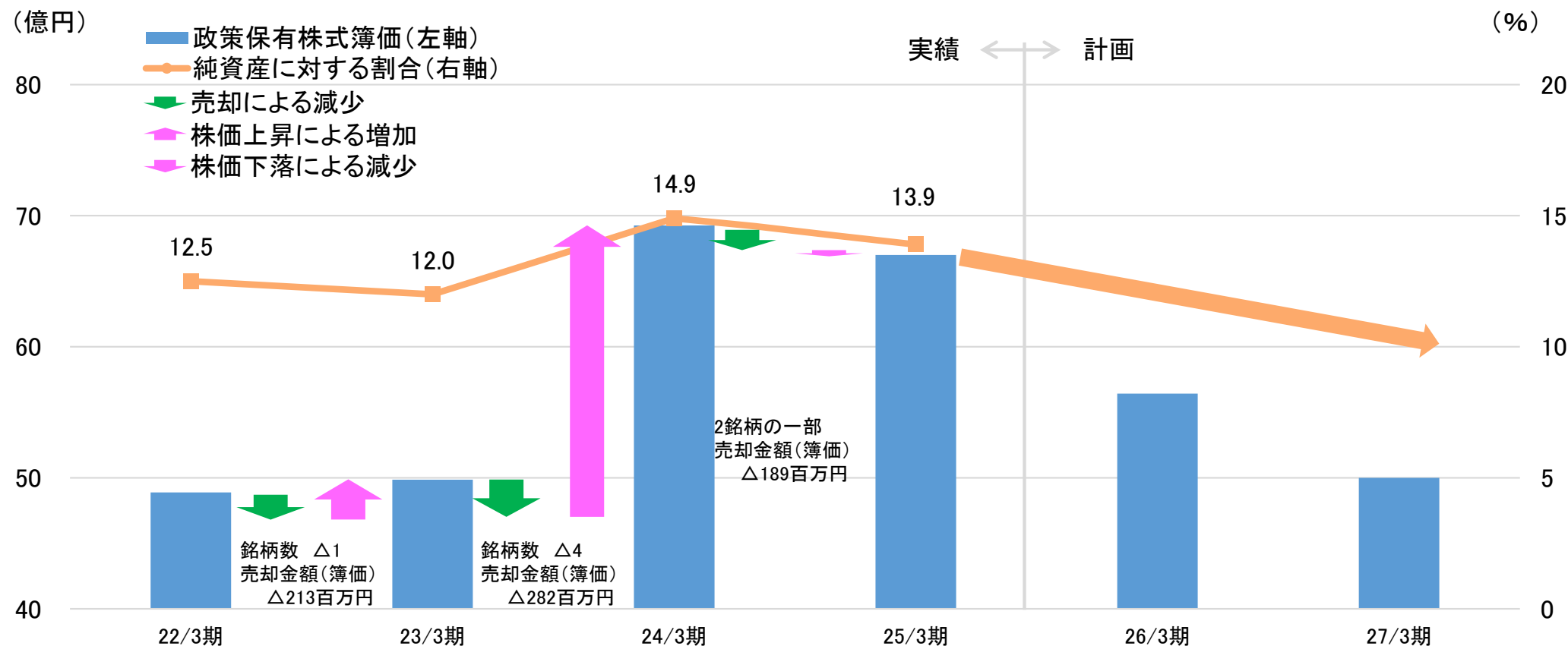
FC(フローティングクレーン)による
門型クレーン搬入



宮地エンジニアリング(株) 千葉工場
橋型クレーン導入

政策保有株式の縮減方針

中計期間中に政策保有株式簿価の純資産に対する割合を10%以下まで縮減へ



- ◆ 25/3期は簿価1.8億円相当の政策保有株式売却
- ◆ 株価は若干下落し、売却を継続して純資産に対する割合を10%以下まで縮減へ

社会的課題への取り組み

グループとしての社会的課題への取り組み

自然災害に鋼構造スペシャリスト集団として対応

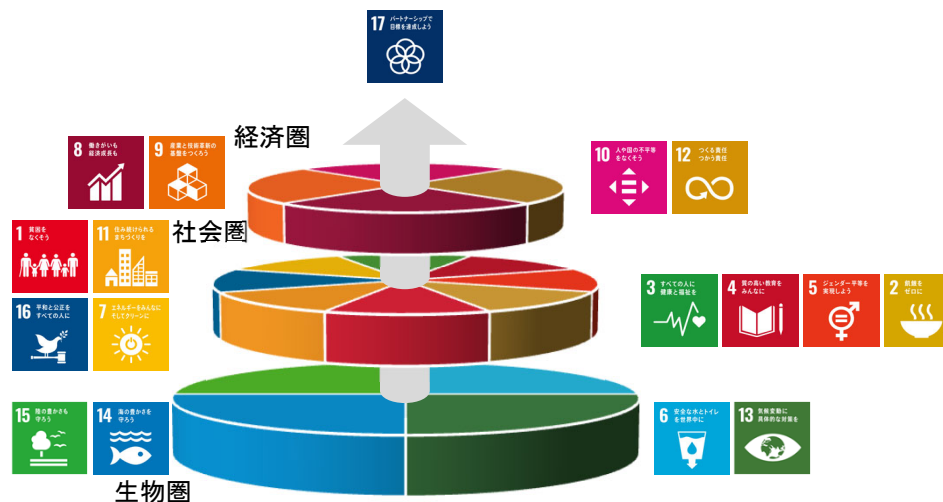
- ◆ 東日本大震災・福島県沖地震 東北新幹線高架橋緊急復旧
- ◆ 熊本地震 熊本城飯田丸五階櫓倒壊防止装備
第一白川橋りょう ケーブルクレーンを用いた撤去・復旧
- ◆ 東日本台風 日野橋の緊急復旧
- ◆ 令和2年7月豪雨 熊本県・球磨川流域 橋梁復旧工事

人材育成・ダイバーシティ推進

- ◆ えるぼし認定の取得・維持に向けた取り組み
- ◆ くるみん認定の取得・維持に向けた取り組み
- ◆ 技術・技能および企業文化伝承への取り組み
- ◆ イノベーションを生み出す職場環境の整備

環境への取り組み

- ◆ 松本工場跡地にて
太陽光発電設備稼働中
- ◆ 栗橋機材センターに
太陽光発電設備設置完了
- ◆ GHG排出量(Scope1・2・3)を算出して開示
- ◆ 沿岸構造物の電気防食技術を用いた
サンゴ保全活動
(生物多様性への取組)



コーポレートガバナンス体制の整備

- ◆ 2021年6月 監査等委員会設置会社へ移行、指名・報酬委員会設置
- ◆ 2022年6月 取締役を7名(過半数の4名を社外取締役)体制へ移行
- ◆ 2023年6月 女性取締役1名就任(社外取締役)
- ◆ 2025年6月 女性取締役1⇒2名増員予定(社外取締役)

株主・投資家との対話強化

- ◆ 2024年4月 IR室をサステナブル経営推進室に改称
- ◆ 決算説明会を含め、IR面談・SR面談の実施を拡充
- ◆ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を開示

株主・投資家との対話の実施状況等について

2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)の取り組み

対話を行った株主・投資家の概要	◆ 国内機関投資家等 SR面談20回、IR面談20回、決算説明会2回、工場見学会6回 ◆ 海外機関投資家等 SR面談5回、IR面談14回
株主・投資家との対話の主な対応者	◆ 代表取締役社長 青田 重利 ◆ 執行役員企画・管理部長 遠藤 彰信 ◆ サステナブル経営推進室長 平岡 輝崇

株主への説明で理解を得られた事項

- ① 中期経営計画(2022～2026年度)における事業戦略や成長投資などの計画と実績および事業環境を踏まえて2024年11月の決算説明会において見直しを行った達成目標等
- ② 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応(2024年度)に基づく資本政策の考え方と実施状況
- ③ 統合報告書2023(2023年5月22日発刊)及び統合報告書2024(2024年9月30日発刊)に基づく、過去の歴史を踏まえた価値創造プロセスとそれを実現する基盤

株主との対話で得られた事項や取り入れた事項(前年度までの対話によるものも含む。)

- ① 統合報告書2024における内容の拡充(2024年9月発刊)
- ② 英文開示(日英同時)への取組み(2024年4月より実施)
- ③ 女性取締役の登用(2025年6月より現状の7名中1名から2名へ増員予定)
- ④ 資本政策の拡充(2024年11月に中期経営計画期間中の配当金額を開示)
- ⑤ 株式分割の実施(2024年10月実施)
- ⑥ 政策保有株式の縮減(2025年3月期に2銘柄縮減)
- ⑦ 取締役のスキル・マトリックスの内容充実(2024年3月期より実施)
- ⑧ 株主総会における電子投票制度および議決権電子行使プラットフォーム採用(2024年3月期定時株主総会より実施)
- ⑨ 取締役会実効性評価の拡充(2025年3月期有価証券報告書より開示拡充予定)

◆ 将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

◆ IRに関するお問合せ先

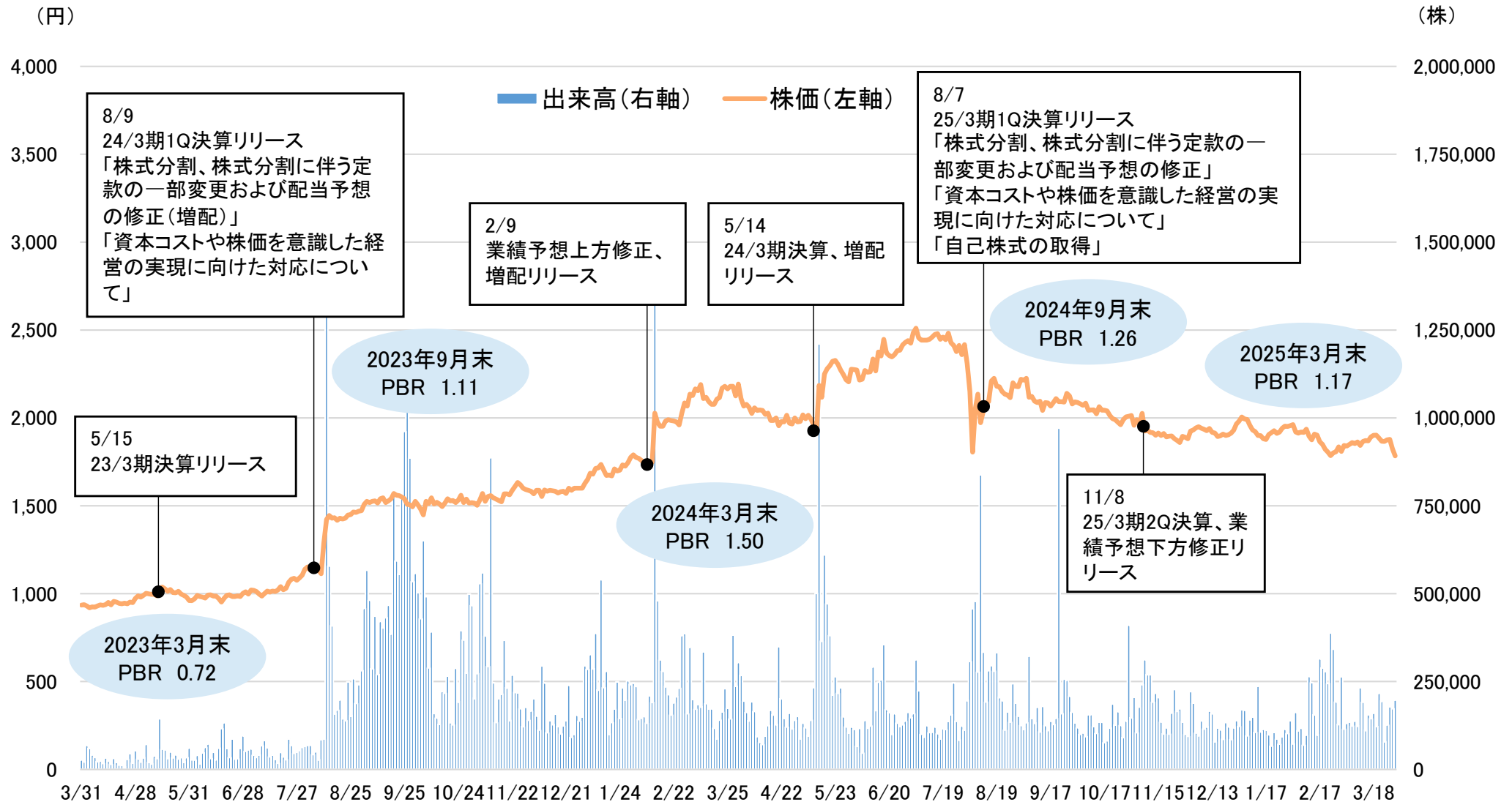
宮地エンジニアリンググループ株式会社
グループ企画管理本部 平岡、遠藤、瀬戸井
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9番19号
TEL 03-5649-0111
E-mail meg.IR@miyaji-eng.co.jp

Appendix 1 – 株価動向



株価動向

株価・出来高推移



(注)2023年10月1日、2024年10月1日にそれぞれ普通株式1株につき2株の割合をもって分割、株価・出来高は分割考慮後に修正

Appendix 2 – 会社概要

＜宮地エンジニアリンググループの経営理念＞

橋梁、建築、沿岸構造物等の
社会インフラの建設、維持・補修の事業を通じ、
豊かな国土と明るい社会創りに貢献する

宮地エンジニアリンググループについて(2/4)

当社グループの事業会社である宮地エンジニアリングとエム・エムブリッジは、国土交通省、高速道路会社等の官公庁から発注される橋梁の製作・施工を主力事業としております



発注者の発注枠内で経営していく受注産業であり、
その発注量は道路インフラ投資への官公庁の予算に左右されます

公共事業の受注は入札で決まるため、計画的に受注をする事ができない



受注を平準化して計画生産を行う事が難しく、損益に山谷が発生することがあります

宮地エンジニアリンググループについて(3/4)

◆ 主力の新設橋梁事業では、

高度成長期の橋梁技術発展に大きく貢献した首都高速の江戸橋ジャンクションに始まり、本州と九州を結ぶ関門大橋や明石海峡大橋をはじめとする多くの本州四国連絡橋、東日本大震災復興のシンボルである気仙沼湾横断橋、東京湾でも特に夜景が美しい東京ゲートブリッジ・レインボーブリッジ・横浜ベイブリッジ等、名だたる長大橋の設計・施工技術の実績があります

◆ 新幹線や鉄道上に架かる難易度の高い橋梁建設工事では、

長年にわたり培ってきた高い技術力と専門の職人集団の技能を活かした現場安全施工で高い評価と絶大なる信頼をいただいております

◆ 「特殊建築物の施工」および「沿岸構造物の設計・製作技術」は実績に基づいた

高い技術力が要求され、当社グループ以外で対応できる会社は限定されています

宮地エンジニアリンググループについて(4/4)



◆ 今後も継続して

7兆円規模と言われている高速道路のリニューアルプロジェクト、

事業規模6,740億円の大阪湾岸道路西伸部の長大橋梁を始め、

第二関門大橋(下関北九州道路)などの高難度のビッグプロジェクト、

更に、首都圏のターミナル駅の再開発事業、連続立体交差事業や高架化、

特殊建築物の施工および大規模沿岸構造物などが計画されており、

当社グループにとって更なる飛躍への絶好の事業環境と捉えております



会社概要



宮地エンジニアリンググループ株式会社

100%出資(連結)



宮地エンジニアリング株式会社 (MEC)

橋梁・鉄骨その他鋼構造物の設計、製作、架設、据付、維持補修、
プレストレストコンクリートの設計、製作並びに土木工事の施工、
工事管理、鉄骨・鉄塔・大空間構造物組立

51%出資(連結)



エム・エム ブリッジ株式会社 (MMB)

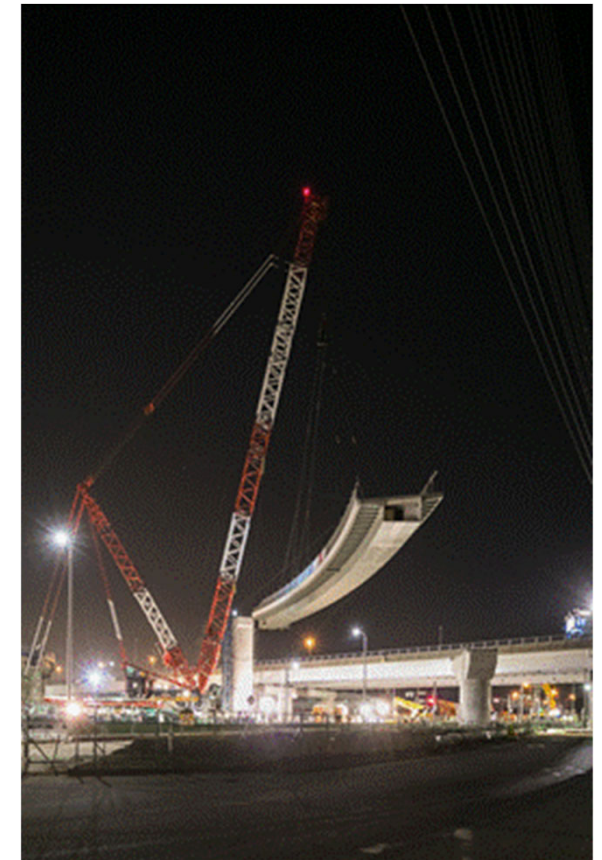
橋梁、沿岸構造物等の設計、製造、据付、販売 および修理

100%出資(非連結)

株式会社エム・ジー・コーポレーション

鋼構造物の設計・製作・架設、ボルト・溶接材料等の販売、
人材派遣業務、他

本店所在地	東京都中央区日本橋富沢町9番19号
代表者	代表取締役社長 池浦 正裕
創業	1908年9月
資本金	30億円
連結売上高	747億円 (2025/3期)



事業所および活動拠点



宮地エンジニアリング(株) 松本発電所

宮地エンジニアリング(株)
栗橋機材センター



エム・エムブリッジ(株) 広島機材センター

エム・エムブリッジ(株) 富山事業所

宮地エンジニアリング(株) 兵庫機材センター

エム・エムブリッジ(株) 本社
宮地エンジニアリング(株) 広島営業所

エム・エムブリッジ(株) 長崎事業所

宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所
エム・エムブリッジ(株) 九州営業所

宮地エンジニアリング(株) 札幌営業所

宮地エンジニアリング(株) 仙台営業所
エム・エムブリッジ(株) 東北営業所

エム・エムブリッジ(株) 那須機材センター



宮地エンジニアリング(株) 千葉工場

エム・エムブリッジ(株) 市原工場

(株) エム・ジーコーポレーション 本社

宮地エンジニアリンググループ(株) 本社

宮地エンジニアリング(株) 本社

エム・エムブリッジ(株) 東日本支店

エム・エムブリッジ(株) 横浜営業所

宮地エンジニアリング(株) 名古屋営業所

エム・エムブリッジ(株) 中部営業所

宮地エンジニアリング(株) 関西支社

エム・エムブリッジ(株) 西日本支店

宮地エンジニアリング(株) 沖縄営業所

主なプロジェクト実績(長大橋・道路橋)

■ 過去から脈々と続く高難度のプロジェクト経験により高い技術を蓄積

～1970年代



関門橋(1,068m)

逐次剛結の先端技術で架設

土木学会「田中賞」

1980～90年代



明石海峡大橋(3,991m)

当時、世界一の吊り橋

土木学会「田中賞」

2000年代以降



東京ゲートブリッジ(2,618m)

日本2位のトラス橋

土木学会「田中賞」



首都高速江戸橋JCT

首都高の最難関工事



港大橋

日本一のトラス橋

土木学会「田中賞」



多々羅大橋(1,480m)

日本一の斜張橋

土木学会「田中賞」



有明筑後川大橋

日本初の橋梁形式

土木学会「田中賞」



気仙沼湾横断橋(1,344m)

東日本大震災復興の象徴

土木学会「田中賞」

主なプロジェクト実績(鉄道関連・大空間・特殊建築物・沿岸構造物)



宮地エンジニアリンググループ株式会社

- 高難度の施工技術を要する鉄道橋建設に数多く参画
- 大空間・特殊建築物においても、東京タワーをはじめ多くのプロジェクト経験を有しノウハウを蓄積

～1970年代

1980～90年代

2000年代以降

橋梁(鉄道関連)



東海道新幹線江川橋梁



東海道新幹線箕輪架道橋



東海道新幹線50K900付近さがみ縦貫道路16号橋

大空間・特殊建築物



東京タワー(333m)



神戸ポートタワー(108m)



バンテリンドームナゴヤ



東京スカイツリー
(634m)



大和ハウスプレミストーム



東京アクアティクスセンター

沿岸構造物



南本牧鋼製ケーソン



東京港海の森トンネル沈埋函

当社グループの強み

大規模案件・高難度案件への参画を可能とさせる業界屈指の総合力

設計・製作

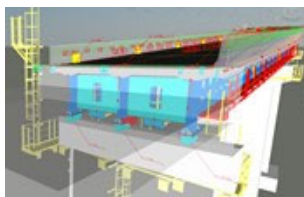
計画・架設

数多くのプロジェクト実績に裏打ちされた確固たる技術力

大規模プロジェクトに投入可能な人的リソース

経営資源を質・量共に
揃える当社グループ
だからこそ持ち得る強み

業界トップクラスの詳細設計力および技術開発力
ICT関連会社と協力して、Click3D、CIM-GIRDER、CIM-SLABの3種類のCIMシステム等を開発



自社工場保有が可能とさせる製作能力



海上長大橋の大ブロック製作対応も可能
業界有数の生産能力を保有

戦略・特殊機材の保有

業界屈指の手延べ機保有量
日本一のアーチ橋を架設した
ケーブルクレーン設備

機材を保有していること
だけでなく
扱える人材の多さと
技術の高さが当社の強み

高技能集団との連携

高度な技術力を有する
特殊職集団との連携は
事業成立に必要不可欠

例) ケーブルクレーン



急峻な山間部等で通常クレーンの侵入が困難な場所で使用



職人の外部ネットワークにより
高度な工事に対応するリソースを確保

当社が建設に参加した巨大構造物 I

本州四国連絡橋



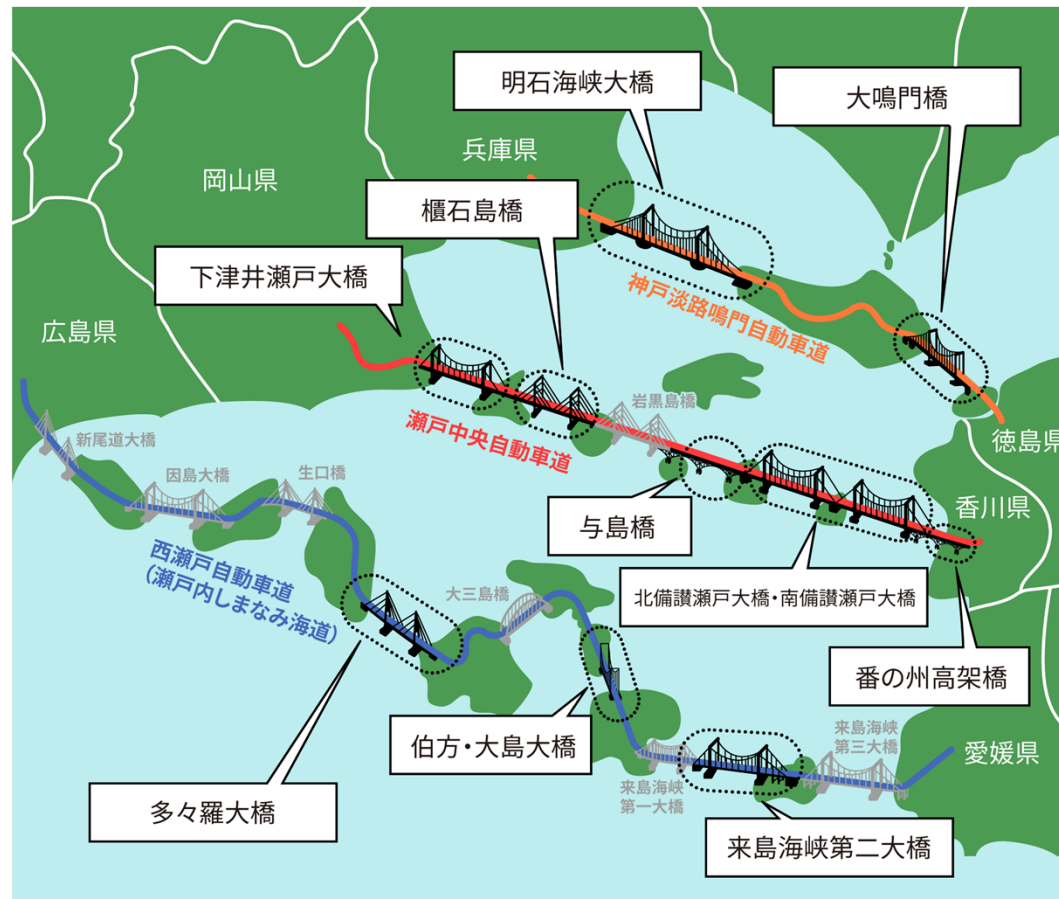
下津井瀬戸大橋



多々羅大橋



来島海峡第二大橋



明石海峡大橋



大鳴門橋



北備讃瀬戸大橋・南備讃瀬戸大橋

当社が建設に参加した巨大構造物Ⅱ

タワー



東京スカイツリー



東京タワー



福岡タワー



水戸芸術館シンボルタワー



神戸ポートタワー



大分グローバルタワー

当社が建設に参加した巨大構造物Ⅲ

ドーム等



エスコンフィールドHOKKAIDO



東京アクアティクスセンター



みずほPayPayドーム福岡



クラサドーム大分



キューアンドエースタジアムみやぎ



バンテリンドーム ナゴヤ



ニプロハチ公ドーム



大和ハウスプレミストドーム



日産スタジアム